



Title	重田晃一教授略歴・著作目録
Author(s)	
Citation	関西大学経済論集, 47(5): 641-647
Issue Date	1997-12-25
URL	http://hdl.handle.net/10112/14005
Rights	
Type	Others
Textversion	publisher

重田晃一教授 略歴・著作目録

略 歴

学 歴

- 1927年12月 広島県豊田郡安芸津町三津に生まれる
 1945年 3月 広島県立忠海中学校卒業
 1947年 4月 山口経済専門学校入学
 1950年 3月 同校卒業
 1950年 4月 大阪商科大学（現大阪市立大学）入学
 1953年 3月 同大学卒業

職 歴

- 1953年 4月 日垂製鋼（現日新製鋼）株式会社入社
 1954年 7月 同社退職
 1955年 4月 関西大学経済学部助手
 1958年 4月 同専任講師
 1961年 4月 同助教授
 1966年 5月 経済学史学会関西部会幹事（1968年 5月まで）
 1967年 4月 大阪市立大学経済学部非常勤講師（英書講読担当 1968年 3月まで）
 1968年 4月 関西大学経済学部教授
 1968年 5月 関西大学在外研究員（学術）としてイギリス（LSE）で研究に従事（1969年 4月まで）
 1972年 4月 大阪経済大学経済学部非常勤講師（経済学史担当 1974年 3月まで）
 1972年10月 関西大学経済学部学部長代理（1973年 9月まで）
 1973年 4月 名古屋大学経済学部非常勤講師（経済学史担当 1974年 3月まで）
 1974年 4月 関西学院大学経済学部非常勤講師（マルクス経済学担当 1977年 3月まで）
 1976年 4月 大阪市立大学経済学部非常勤講師（経済原論担当 1977年 3月まで）
 1978年10月 関西大学経済学部学部長（1979年 9月まで）
 1982年10月 関西大学大学院経済学研究科長（1984年 9月まで）
 1987年 7月 愛媛大学法文学部非常勤講師（経済学特殊講義 半期集中講義）
 1988年 1月 学校法人梅花学園理事（現在に至る）
 1988年 4月 関西大学在外研究員（調査）としてイギリス（LSE）で研究に従事（同年 9月まで）
 1988年10月 学校法人関西大学評議員（1992年 9月まで）
 1991年 4月 甲南大学経済学部非常勤講師（経済学史担当 1992年 3月まで）

著 作 目 録

I 訳 書

- 『マルクス＝エンゲルス全集』第6巻（石堂清倫ほかとの共訳）大月書店 1961年4月
『経済学ノート』（K. マルクス）（杉原四郎との共訳）未来社 1962年12月
『マルクス伝』（D. マクレラン）（杉原四郎・松岡保・細見英との共訳）ミネルヴァ書房
1976年12月
『After MARX（アフター・マルクス）』（D. マクレラン）（松岡保・若森章孝・小池渺との共訳）新評論 1985年9月
『マルクス』（P. シンガー）雄松堂出版 1989年6月

II 論文等

(i) 単行本への寄稿

- 「バリ時代のマルクスの経済学研究」（K. マルクス『経済学ノート』前掲訳書 未来社）
1962年12月
「労働疎外論と唯物史観——『経済学・哲学手稿』から『ドイツ・イデオロギー』へ」（経
済学史学会編『「資本論」の成立』岩波書店）1967年11月
「『経済学ノート』諸版と諸解釈」（杉原四郎との共同執筆）（K. マルクス『経済学ノート』
前掲訳書 第2版 未来社）1970年11月
「マルクス主義の3源泉——1840年代のあゆみ」（杉原四郎・真実一男編『経済学形成史』
ミネルヴァ書房）1971年6月
「経済学批判体系の形成——1850年代のあゆみ」（同上）同上
「森田桐郎〈『ジェームズ・ミル評註』へのコメント〉」（現代の理論社編集部編『マルクス・
コメンタール——主要著作の研究的解説』I 現代の理論社）1972年4月
「マルクス」（杉原四郎との共同執筆）（日本経済学会連合編『経済学の動向』上巻 東洋
経済新報社）1974年11月
「青年ヘーゲル派からの訣別——『聖家族』」（杉原四郎・佐藤金三郎編『資本論物語——
マルクス経済学の原点をさぐる』有斐閣）1975年9月
「史的唯物論の確立——『ドイツ・イデオロギー』」（同上）同上
「恐慌と革命の経済学——『共産党宣言』」（同上）同上
「資本とは？ 賃金とは？——『賃労働と資本』」（同上）同上
「生涯の一転機——亡命，挫折，沈潜」（同上）同上
「1840年代」（遊部久蔵・小林昇・杉原四郎・古沢友吉編『講座経済学史』第3巻，『マル
クス経済学の生成と確立』同文館）1979年7月

(ii) 定期刊行物への寄稿

- 「恐慌の週期性に関する A. ベナリの見解」(『経済論集』関西大学経済学会 6巻4号) 1956年7月
- 「初期マルクスと青年ヘーゲル派——初期マルクス研究に関する一展望」(『経済論集』7巻7号) 1958年1月
- 「初期マルクスの一考察——経済学批判への端緒としての〈ジェームズ・ミル評註〉を中心として」(『経済論集』8巻6号) 1959年2月
- 「『ドイツ・イデオロギー』と疎外の理論——『ドイツ・イデオロギー』研究序説」(『経済論集』9巻4号) 1959年12月
- 「『ドイツ・イデオロギー』公刊史に関する覚書(一)」(『経済論集』11巻6号) 1962年2月
- 「『ドイツ・イデオロギー』公刊史に関する覚書(二)」(『経済論集』12巻1号) 1962年4月
- 「マルクスのバリ時代の経済学研究に関する資料的覚書」(『経済論集』13巻1・2号「三谷友吉博士還暦記念特輯」) 1963年6月
- 「マルクス労働疎外論に関する一文献——A. コルニュ『マルクスとエンゲルス』第二巻第二章について」(『経済論集』13巻3号) 1963年9月
- 「『ドイツ・イデオロギー』の一断面——経済学批判の前提としての〈哲学的意識〉の批判」(『経済論集』17巻5号「『資本論』100年特集」) 1967年12月
- 「アルチュセールのマルクス主義論」(『立命館経済学』立命館大学経済学会 19巻6号「相澤秀一教授退任記念論文集」) 1971年2月
- 「Grünberg Archiv」(『社会思想』社会思想社 1巻2号) 1971年8月
- 「晩年のコルシュに関する資料的覚書——〈チューリヒ・テーゼ〉とその諸解釈」(『経済論集』28巻1・2・3・4号「関西大学経済学会創設五十周年記念特輯」第2分冊) 1978年9月
- 「新聞、諸雑誌よりみたマルクス没後100年記念の動向」(『書評』関西大学生協同組合組織部「書評」編集委員会 68号「K. MARX 特集」) 1984年1月
- 「『経済学・哲学草稿』研究の新動向——M. フェイ論文を中心に」(『甲南経済学論集』甲南大学経済学会 25巻4号(150号)「杉原四郎教授退職記念号」) 1985年3月
- 「ソヴィエト工業化論争と正統マルクス主義(研究報告要旨)」(『経済学会報』関西大学経済学会 7号) 1986年12月
- 「『資本論』第1巻初版(関西大学所蔵)について(解題)」(『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』マルクス・エンゲルス研究者の会 8号) 1989年10月
- 「T. ボトモア編『マルクス主義思想辞典』第2版の刊行によせて」(『経済論集』42巻4号) 1992年10月
- 「大原社研と研究生制度」(『研究双書』第94冊 関西大学経済・政治研究所) 1995年3月
- 「廣松さんと『ドイツ・イデオロギー』編集問題」(『廣松涉著作集』第13巻 岩波書店 月報5) 1996年10月
- 「カール・メンガー文庫(マイクロ版集成)について(資料紹介)」(『図書館フォーラム』関西大学図書館 2号) 1996年

Ⅲ 書 評

- 福井孝治著『経済学の基礎にあるもの』（『経済論集』9巻1号）1959年4月
- H. ルフェーヴル著 吉田静一訳『カール・マルクス——その思想形成史』（『経済論集』10巻2号）1960年9月
- マルクス経済学の総体的把握と展望——杉原四郎著『マルクス経済学の形成』（『関大』関西大学校友会 113号）1964年8月15日
- テ・イ・オイゼルマン著 森宏一訳『マルクス主義哲学の形成』第一部（『経済論集』14巻4号）1964年11月
- モーリス・ドップ著『社会主義論』——*Argument on Socialism*, by Maurice Dobb. London, Lawrence & Wishart, 1966. 64p.（『経済論集』17巻1号）1967年4月
- 大島清著『資本論への道』（『図書新聞』951号）1968年3月9日
- I. メイサーロシュ著『マルクスの疎外論』——*Marx's Theory of Alienation*, by István Mészáros. London, Merlin Press, 1970. pp.352.（『経済論集』20巻3号）1970年9月
- G. リヒトハイム著『ルカーチ』——*Lukács*, by George Lichtheim. Fontana Modern Masters, 1970. pp.141.（『経済論集』21巻2号）1971年6月
- 良知力著『マルクスと批判者群像』（『日本読書新聞』1626号）1971年12月20日
- マクレラン著 宮本十蔵訳『マルクス思想の形成』（『経済論集』21巻5・6号）1972年3月
- I. メサーロッシュ著 三階・湯川訳『マルクスの疎外理論』（『日本読書新聞』1647号）1972年5月8日
- 立野保男著『社会科学方法論研究』（『経済論集』22巻2号）1972年6月
- 山中隆次著『初期マルクスの思想形成』（『日本読書新聞』1684号）1973年1月1日
- 望月清司著『マルクス歴史理論の研究』（『日本読書新聞』1733号）1973年11月19日
- 森田桐郎・望月清司『社会認識と歴史理論』（『講座マルクス経済学』第1巻）を読んで（『経済評論』日本評論社）1974年8月
- カール・マルクス／フリードリヒ・エンゲルス著 廣松渉編訳『ドイツ・イデオロギー』第1巻第1篇（『週刊読書人』1047号）1974年9月23日
- 廣松版『ドイツ・イデオロギー』の成果（『思想』岩波書店 606号）1974年12月
- 訳者あとがき（D. マクレラン『マルクス伝』前掲訳書）1976年12月
- 服部文男編集『理論構造と基本概念』、『講座史的唯物論と現代』第2巻（『週刊読書人』1192号）1977年8月1日
- K. アクセロス著 竹内良知・垣田宏治訳『技術の思想家マルクス』（『日本読書新聞』2068号）1980年8月4日
- 的場昭弘『トリーアの社会史——カール・マルクスとその背景』（文献紹介）（『経済学史学会年報』経済学史学会 25号）1987年11月
- トム・ボトモア編『マルクス主義思想辞典』第2版, 1991年（『経済科学通信』71号）1992年11月

Ⅳ 辞(事)典諸項目

- クーゲルマン (『社会科学大事典』5 鹿島研究所出版会) 1968年12月
 社会主義 (杉原四郎との共同執筆) (『社会科学大事典』9 鹿島研究所出版会) 1969年8月
 デューリング (『社会科学大事典』13 鹿島研究所出版会) 1970年4月
 資本主義 (杉原四郎との共同執筆) (『現代世界百科大事典』第2巻 講談社) 1972年2月
 資本主義 (杉原四郎との共同執筆) (『グランドユニヴァース大百科事典』第12巻 講談社) 1977年10月
 疎外 (大阪市立大学経済研究所編『経済学辞典』第2版 岩波書店) 1979年6月
 同上 (同上第3版) 1992年3月

Ⅴ その他

- 雑誌礼讃 (『関大』132号) 1966年4月15日
 スコットランドの旅——アダム・スミスの故郷を訪ねて (『関西大学通信』9号) 1970年5月16日
 地方父兄懇談会に出席して (『会報』関西大学教育後援会 28号) 1971年4月
 細見英教授を悼む (『関西大学通信』63号) 1976年3月25日
 山口時代の想い出 (『大学1977年』関西大学広報委員会) 1977年4月
 現場の片隅から (「先生の声」欄) (『会報』49号) 1978年4月
 経済学を学ぶにあたって——A君へ (『大学1980年』関西大学広報委員会) 1980年4月
 矢口先生と皿廻し (「故矢口孝次郎名誉教授追悼文集」への寄稿) (『経済学会報』創刊号) 1980年12月
 松原先生と経済学部 (「松原先生の横顔」への寄稿) (『経済学会報』4号) 1983年12月
 相澤先生と経済原論の講義 (『愧なきを期す——相澤秀一の人と生涯』「追想・相澤秀一」刊行会) 1984年8月
 無言の行に耐えつつ (「ゼミナール拝見」欄) (『葦』関西大学教育後援会 69号) 1984年12月
 人間形成の一時期をともにして (「友を選ばば…」欄) (『関西大学通信』144号) 1985年3月25日
 「河上肇と関西大学」によせて (「図書館だより」欄) (『関西大学通信』168号) 1987年11月30日
 社会科学を考える；社会と社会科学 (『大学1991』関西大学広報委員会) 1991年2月
 原典でみる経済思想の歩み (「図書館だより」欄) (『関西大学通信』203号) 1991年10月9日
 一部復帰が悲願・アーチェリー部 (「クラブ活動いま・昔」への寄稿) (『関大』422号) 1992年8月15日
 仏の雄さん (『いばらず かざらず きどらず——木村雄二郎追悼集』) 1994年7月

思い出すことども——観察者、批評家、気配りの人 雄さん（「木村雄二郎教授追悼記念」への寄稿）（『経済学会報』15号）1994年12月

切れ切れの思い出から（「津川正幸教授退職記念」への寄稿）（『経済学会報』16号）1995年12月